第1章 第2次岡山市協働推進計画の策定について

1. 策定の趣旨

私たちが暮らしているまちは、行政や町内会、NPO等の市民活動団体、企業、大学等(以下、「多様な主体」という。)が、それぞれの目的、役割をもって地域での課題解決に向けた活動を行い、だれもが暮らしやすいまちとなるよう取り組んでいます。

そうした中、個人の価値観が多様化し、社会状況は急速に変化するなど市民ニーズや地域 課題は複雑化・多様化しています。また、岡山市では人口減少、少子高齢化が進んでおり、 地域活動の新たな担い手不足や担い手の高齢化が問題となっています。

こうした様々な課題に対応するため、平成28年に岡山市協働のまちづくり条例に基づく「岡山市協働推進計画(平成28年度~令和2年度)」(以下、「前計画」という。)を策定し、多様な主体との協働した取組によって地域での社会課題解決に向けた取組を行ってきました。

令和2年度をもって前計画の期間が終了となりますが、協働の取組をこれまで以上に推進し、持続可能な活力ある岡山市を築いていくために、新たな協働推進計画を策定することとします。

2. 計画の位置付け

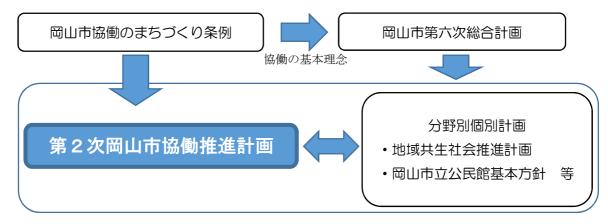
この計画は、岡山市協働のまちづくり条例第14条の規定に基づき策定するものであり、 岡山市第六次総合計画を上位計画とし、その他の個別計画とも整合性を図ることとします。

【岡山市協働のまちづくり条例】

(推進計画)

第14条 市は、多様な主体による協働を推進するために、推進計画を策定するものとする。

第2次岡山市協働推進計画と岡山市協働のまちづくり条例、岡山市第六次総合計画等との関係



3. 計画期間

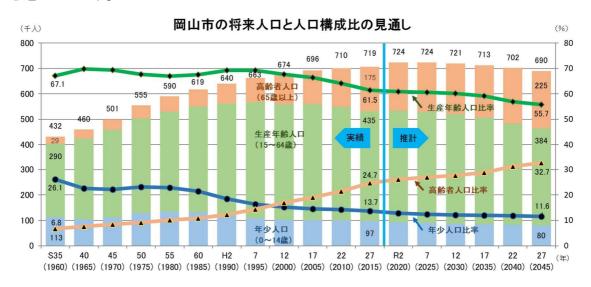
第2次岡山市協働推進計画の計画期間は、令和3年度から令和7年度の5年間とします。

第2章 岡山市の現状について

1. 岡山市の現状

(1) 人口

岡山市の人口構成は、少子高齢化が進んでおり、自然減が社会増を上回り、人口減少局面を迎えています。

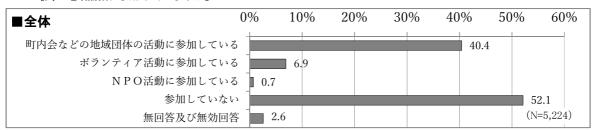


総務省「国勢調査」(実績値)、岡山市推計結果(推計値)

(2) 岡山市市民意識調査

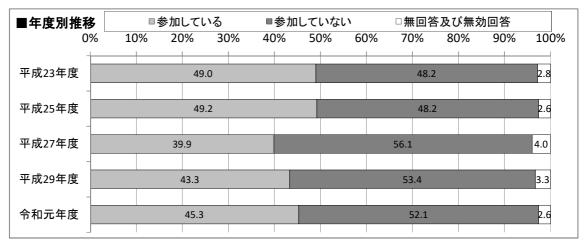
令和元年度に実施した岡山市市民意識調査によると、地域活動に参加しているかどうかの問いに対して、「町内会などの地域団体の活動に参加している」が40.4%と4割を超え、「ボランティア活動に参加している」が6.9%、「NPO活動に参加している」が0.7%となっています。一方、地域活動に「参加していない」と回答している人が、全体の半数以上の52.1%となっています。

[問 地域活動に参加していますか]



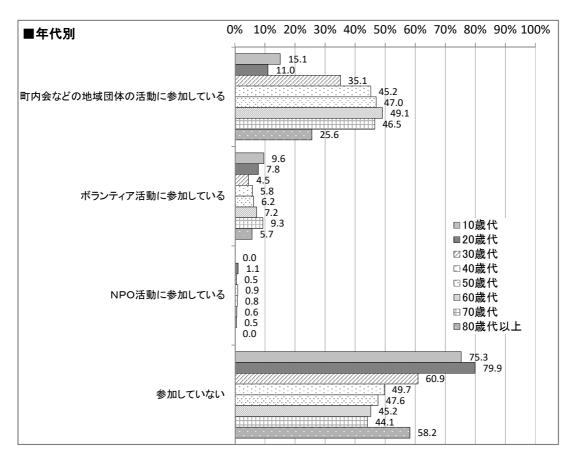
出典:第18回 岡山市市民意識調査(令和元年度)

年度別推移で見てみると、「参加している」と回答した人の割合は、平成27年度で一度 落ち込みが見られましたが、近年は再び増加傾向となっています。



出典:第18回 岡山市市民意識調査(令和元年度)

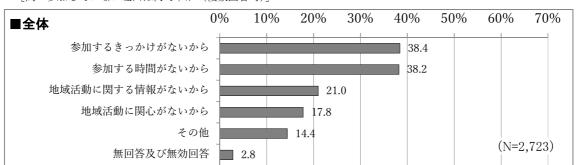
年代別に見てみると、「参加していない」と回答した人の割合は10歳代、20歳代が8 割近くを占めています。



出典:第18回 岡山市市民意識調査(令和元年度)

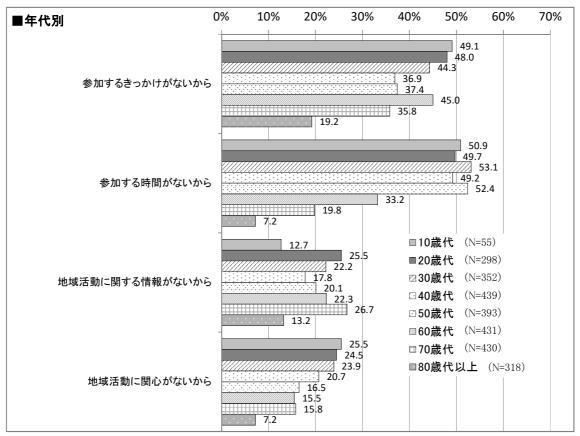
地域活動に「参加していない」と回答した人のうち、その理由を尋ねると、「参加するきっかけがないから」と回答した人の割合が38.4%、「参加する時間がないから」と回答した人の割合が38.2%で4割近くを占めており、「地域活動に関する情報がないから」が21.0%となっています。

[問 参加していない理由は何ですか(複数回答可)]



出典:第18回 岡山市市民意識調査(令和元年度)

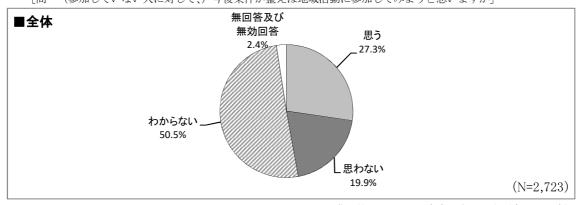
参加していない理由を年代別にみると、「参加するきっかけがないから」は30歳代以下 及び60歳代で4割以上となっており、「参加する時間がないから」は50歳代以下で5割 前後となっています。「地域活動に関心がないから」と回答した人の割合は若い年代が一番 高く、年齢が上がるにつれてその割合が減少しています。



出典:第18回 岡山市市民意識調査(令和元年度)

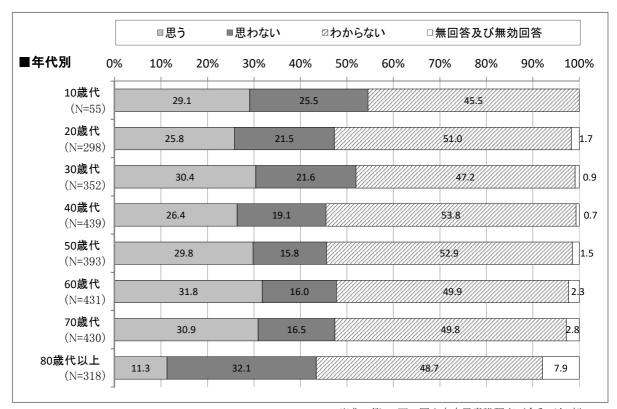
今後、条件が整えば地域活動に参加するかどうかの問いに対して、「思う」と回答した人が27.3%であり、「思わない」と回答した人の割合より7.4ポイント高くなっています。





出典:第18回 岡山市市民意識調査(令和元年度)

年代別にみると、70歳代以下の年代で「思う」と回答した人の割合が3割前後となっており、「思わない」と回答した人の割合より高くなっています。



出典:第18回 岡山市市民意識調査(令和元年度)